下関市立大学広報

2007年11月1日　第53号

発　行
公立大学法人下関市立大学広報委員会
山口県下関市大学町2-1-1
TEL 0832（52）0288
FAX 0832（52）8099
http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/

2007年度現代ＧＰに本学の取組が採択

文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」（現代ＧＰ）に本学の取組が採択された。現代ＧＰは、社会的要請の強い政策課題（地域活性化への貢献、知的財産関連教育など）への各大学等の取組の中から特に優れたものを選んで支援する事業で、今年度の採択状況は、本学が申請した「地域活性化への貢献（地元型）」の分野では、大学・短大・高専からの応募総数128件のうち、採択されたのは本学を含めて26件という狭き門であった（公立大学・短大では申請16校中採択は３校）。本学の取組の名称は「地域貢献を目的とした共創的学習プログラム―住民参加型『観光・交流・まちづくり』の実践―」、取り組み期間は21年度までの３年間で、この間に国から措置される総予算は約２千万円である。

具体的には、①環境NPOへの参加による持続可能なエコ社会の実現、②まちの駅活動による観光活性化、③河川流域探訪への参加と河川環境保護活動の三つのテーマ毎に学生主導で住民参加のワークショップを行い、地域活性化に向けた各種の提言をまとめることを最終的な狙いとしている。このために、ワークショップの運営の仕方や地域連携のあり方などについて、住民を巻き込んだ、地域活性化のための共創的な教育プログラムを開発し、基礎演習、教養演習、専門演習などを通じて、実践していくことになる。

オープンキャンパス2007 開催

８月５日（日）、恒例のオープンキャンパスが開催された。一週間前の時点では台風５号の直撃も予想され、開催があやぶまれたが、当日は好天に恵まれ、無事にすべてのスケジュールをこなすことができた。参加者も、市内の高校生のほか奈良や鹿児島などの遠方組も含めて370名を数えた（昨年度は347名）。

今年は、初めて、本学用にラッピングした無料シャトルバスを幡生駅から運行し、約130名が利用した。また、今回初の試みとして、生協の協力のもとに昼食の特別メニュー（無料券）をつくり、かき氷、焼きそばなどを用意し、参加者には好評であった。

本学用にラッピングされたバス

参加者アンケートをみると、模擬講義（経済学科専門科目：「経済学の視点からみる環境問題」森准教授、国際商学科専門科目：「高杉晋作と明治維新」平池教授、教養科目：「どうして学ばなければならないの？」奥野准教授）の参加者が多く、「身近なことを例にしているので興味が湧いた」、「この講義で漠然としていたイメージが具体的になった」「歴史上の人物像から、企業にどのような人材が必要なのかが、分かりやすく説明されていた」等の声があった。他にも模擬海外研修（英語圏コース：サリバン特任教員、中国コース：武井講師、韓国コース：白川准教授）、「市大生と語ろう」、学内施設ツアー、個別相談など、盛りだくさんのメニューをおもに午前中に集中させ、それぞれ参加者は熱心に聞き入っていた。アンケートによると、全体のメニューは概ね好評であり、回答を寄せた98名のうち「良かった」が79名、「普通」が18名であった。来年は、帰りのバスの用意、参加者の増加に対応するために二日にわけて実施するなど、見直しが必要となろう。

英語弁論大会を終えて

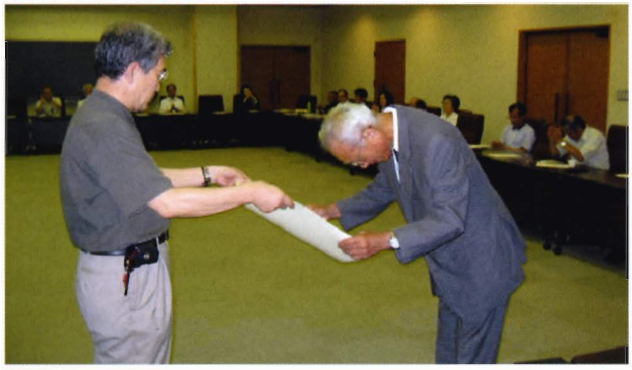
実行委員長　中山あゆみ(国際商学科3年)

6月23日（土)、第38回下関市立大学弁論大会が開催された。大会は2部構成となっており、前半は『Prepared Speech』と呼ばれ、事前に作成したスピーチを暗唱する。後半は、その場で与えられたテーマについて15分間で作成した即席のスピーチを4分間で行う『Extemporaneous Speech』。この二つの得点を合わせて審査が行われる。今回は、関東、関西、中国、九州地方から12大学12名が出場した。発音、メモライズともにどの出場者も十分に準備できており、大変レベルの高い大会となった。審査の結果、東京大学の中山総一郎さんが優勝した。本学からは生田真也さん（経済学科2年）が出場し、5位入賞という成績を修めた。大会終了後には、ジャッジの先生方や出場者、スタッフとの交流の場となるレセプションが行われた。

今年は例年と異なる点がいくつかあったが、ジャッジの先生方や出場者、スタッフであるESSの部員全員の協力で、年1回の伝統行事を成功させることができた。思い通りにいかないことも多かったが、大会後の出場者からの「楽しい大会でした」「また来ます」という言葉を聞いて、大変嬉しかった。

堀内前学長　名誉教授に

堀内隆治前学長に本学の名誉教授の称号を授与することになり、8月8日の教授会に先だって授与式が行われた。堀内前学長の在職期間は、昭和45年の着任以来37年に及び、継続的な勤務としては歴代教員のなかで最長という長きにわたったが、この間、社会政策論・地域福祉論等の授業を担当されるかたわら、学生部長、産業文化研究所長、図書館長、大学院研究科長などの要職を歴任され、さらに平成16年から3年間、学長として法人化への移行作業を陣頭指揮されるなど、本学の発展に多大な貢献をされた。研究面でも、単著『福祉国家の危機と地域福祉』（ミネルヴァ書房）を上梓されるなど、多くの優れた研究成果をあげられた。



「世界の厨房」

国際交流会ともだち　正本大貴(国際商学科3年)

7月11日（水)、私たち国際交流会ともだちの主催で、厚生会館3階多目的ホールにて『世界の厨房』を行いました。これは例年行っている行事の一つで、在学中の留学生の母国の料理を作ることによって、サークルの部員が国際交流をするだけでなく、一般の学生や市民の方々にも参加していただき、国際交流を図るというイベントです。

今回用意した料理は、日本の「素麺」、ピーマンの実をくりぬき肉づめしたトルコの「ドルマ」、タイの「トムヤムクン」、オーストラリア独自のケーキ「パヴァロア」、中国の「麻婆豆腐」、韓国の「チヂミ」です。熊野小学校や文洋中学校の児童・生徒さんほか学外の方々にも参加していただき、大変にぎやかで皆さんに喜ばれる、国際理解を深める有意義な会になりました。さらに、毎年恒例のよさこいダンス同好会による踊りの披露と留学生による花柳流日本舞踊の発表がありました。留学生達はこの日のために一生懸命練習に励み、すばらしい舞を披露していました。

10月28日の学園祭では、他大学の留学生にも参加を呼びかけ、「留学生日本語弁論大会」を開催し、国際交流を図ってまいります。大会終了後立食会も行います。ぜひご来場下さい。

学会主催　学術講演会

7月6日(金)17時から211教室で、第一回学術講演会が開催された。東南アジア考古学を専門とする昭和女子大学菊池誠一教授が、「世界文化遺産ベトナム日本町ホイアンの魅力」と題して、ここ十数年間のホイアンに関する研究成果を披露した。講演の内容は、近世に日本町のあった正確な位置が未だ分かっておらず、最新の技術を駆使した地中レーダー探査などによって遺構の発見に努めていることや、両国で出土する陶磁器や近世の貿易記録から日本とベトナムとの密接な交易を知ることができること、日本からの漂流民について記した「安南国漂流記」「南瓢記」の紹介などであった。また、現在残っている町並みは19世紀のもので、その調査や保存に日本が協力している様子など、興味深い内容に市民を含む30名の参加者が聞き入った(櫻木晋一)。

2008年度大学院入試

9月15日(土)、2008年度大学院入試が行われた。一般選抜の受験者は、経済社会システム専攻が3人、社会人選抜は経済社会システム専攻が3人、外国人留学生選抜は経済社会システム専攻が1人、国際ビジネスコミュニケーション専攻が1人、交流協定校特別選抜枠として青島大学から1人の志願があり、合計受験者数は9名(欠席者は除く)であった。

一般選抜受験者は、午前に外国語、論述試験、社会人選抜及び外国人留学生選抜受験者は午前に小論文と論述試験を受け、午後に受験者全員が口述試験（面接試験）を受けた。交流協定校からの志願者は書類選考のみである。一般選抜受験者2人、社会人選抜受験者3人、交流協定校選抜の1名、計6名が合格した。来年3月に二次募集（募集定員は若干名）が行われる。

オープンキャンパスでミニシンポジウム

本年度開催のオープンキャンパスにおいて、大学院は「関門地域の鯨産業・鯨文化」をテーマにミニシンポを開催した。講師は「鯨博士」として精力的に活動されている、本学入試班の岸本充弘班長にお願いした。講演は、鯨が83種類に分類されているといった解説から始まったが、ミンク鯨に代表されるように、生態系に悪影響を及ぼすほど資源増加が顕著となった現状を踏まえて、鯨資源をめぐる新たな利活用秩序の必要性が提起され、留学生や教職員と論議が交わされた。

大学院修士論文中間報告会

大学院修士論文中間報告会は8月4日(土)に開催された。修論作業は研究経過中間報告（4月下旬提出→大学院担当教員全員への配布）を受けて、論文提出期限の中間地点において、大学院担当教員による集団指導の一環として実施されている。今回は経済社会システム専攻の4名、国際ビジネスコミュニケーション専攻の6名が報告を行い、教員による活発なコメント等があった。

（研究科長　濱田英嗣）

2008年度入試の概要

◆推薦入学

○全国推薦
2007年11月17日（土）小論文

○地域推薦
2007年11月17日（土）小論文

◆特別選抜

○帰国子女特別選抜
2007年11月17日（土）小論文(日本語による)／面接

○社会人特別選抜
2007年11月17日（土）小論文／面接

○中国引揚者等子女特別選抜
2008年1月26日（土）小論文(日本語による)／面接

○外国人留学生
2008年1月26日（土）小論文(日本語による)／面接

◆一般選抜

○前期日程　2008年2月25日（月）　下関・大阪

前期日程試験の実施教科・科目及び配点

学科	大学入試センター試験	個別学力検査	配点合計
経済学科	・国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語から2科目(2教科)採用	小論文	800点
	【科目の採用の仕方と配点】 ・すべての科目を200点満点に換算する。 1．最も得点の高い科目をさらに300点満点に換算し採用する。 2．次に得点の高い科目を200点満点のまま採用する。 300点＋200点	300点	
国際商学科	・外国語（必須） ・国語、地理歴史、公民、数学、理科から1科目採用	小論文	800点
	【科目の採用の仕方と配点】 1．外国語を300点満点に換算し採用する。 2．外国語以外のすべての科目を200点満点に換算し、最も得点の高い科目を採用する。 300点(外国語)＋200点	300点	

○公立大学中期日程
2008年3月8日（土）　下関・大阪・福岡

公立大学中期日程試験の実施教科・科目及び配点

学科	大学入試センター試験	個別学力検査	配点合計
経済学科	・国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語から3科目（3教科）採用	外国語(英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング・ライティング)	800点
	【科目の採用の仕方と配点】 ・すべての科目を200点満点に換算し、得点の高い順に3科目（3教科）を採用する。　200点×3	200点	
国際商学科	・国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語から3科目（3教科）採用 ※ただし、この3教科の中に数学か外国語のどちらかを含むこと。	外国語(英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング・ライティング)	800点
	【科目の採用の仕方と配点】 ・すべての科目を200点満点に換算する。 1．数学か外国語のうち得点の高い方の科目を採用する。 2．1.で採用した科目以外の科目のうち得点の高い順に2科目(2教科)を採用する。　200点×3	200点	

※前期日程、公立大学中期日程とも外国語で英語を選択した場合はリスニングも含む。地理歴史と公民からは1科目のみ。

◆編入学　2007年11月17日（土）小論文／面接

少林寺拳法部
益冨・永江ペア　全国大会出場決定

少林寺拳法部の益冨・永江ペアは7月15日に行われた山口県大会の組演武・初段の部を制し、11月4日に日本武道館で行われる全国大会への出場を果たした。山口県大会では優勝した益冨・永江ペアの他にも多くの下関市立大学の拳士は上位入賞を果たし、部としてのレベルの高さをみせた。

少林寺拳法部は部員の人数に対して練習場所が非常に狭く、決して恵まれた練習環境ではなかったが、井村監督の下、気迫のこもった練習をしており、今回、その努力が実を結ぶ結果となった。

全国大会に出場するにあたって

少林寺拳法部 主将 永 江 圭 介(経済学科3年)

7月15日に周南市で少林寺拳法山口県大会が行われました。そこで、永江圭介・益冨圭太ペアが一般初段の部において優勝し、11月4日に日本武道館で行われる全国大会への切符を掴むことができました。今回の県大会は優勝すると全国につながるということもあり、出場した拳士の数が多く、大会のレベルも普段より高かった印象がありました。私たちは県大会特有の雰囲気に飲まれることのないように、今まで練習してきた成果をすべて出せるよう優勝することだけを考えながら自分たちの演武に集中して挑みました。

大会で無事優勝することができ、全国への切符を勝ち取ることが出来たのは、ご指導いただいた先輩方をはじめ、部の仲間たちや影で努力してくださっている体育会の方々のおかげだと思っています。全国大会でも出場することに満足することなく、学校の代表として全力で戦い、上位を目指して頑張りますので応援宜しくお願いします。

2007年度(春期)体育系サークル成績

サークル名	大会名	種目	成績	
男子バスケットボール	春期一般バスケットボール大会2部リーグ		1位	
男子バスケットボール	春期中国学生バスケットボール大会		8位	
男子バスケットボール	春期山口学生バスケットボール大会1部リーグ		4位	
紫電流空手道	第6回紫電流空手道選手権大会	男子個人	2位	前田　徹
少林寺拳法部	山口県大会	男子組演武段外	1位	市川・瀧本・藤瀬
少林寺拳法部	山口県大会	男子組演武段外	3位	崎村・末永
少林寺拳法部	山口県大会	男子組演武初段	1位	益冨・永江
少林寺拳法部	山口県大会	男子組演武初段	3位	河野・中山
少林寺拳法部	山口県大会	男子組演武二段	2位	澁谷・高橋
少林寺拳法部	山口県大会	男子組演武二段	3位	岡田・渡邊
少林寺拳法部	山口県大会	女子組演武段外	1位	駒寿・山崎
少林寺拳法部	山口県大会	女子組演武段外	3位	長宗・畑村
少林寺拳法部	山口県大会	女子組演武初段	3位	石田・泉田
少林寺拳法部	中四国学生大会	男子組演武段外	2位	市川・藤瀬
少林寺拳法部	中四国学生大会	女子組演武段外	2位	駒寿・長宗
少林寺拳法部	中四国学生大会	団体段外	1位	
少林寺拳法部	中四国学生大会	団体段外	2位	
男子バレーボール	山口県リーグ	Bリーグ	2位	
硬式庭球部	春期北九州・下関学生テニス選手権大会	男子ダブルス	ベスト4	柳谷・草野
硬式庭球部	春期北九州・下関学生テニス選手権大会	男子ダブルス	ベスト4	田原・入江
硬式庭球部	春期北九州・下関学生テニス選手権大会	男子シングルス	ベスト8	入江　隼斗
硬式庭球部	春季中国四国学生テニス選手権大会	男子ダブルス	ベスト64	柳谷　彰人
硬式庭球部	春季中国四国学生テニス選手権大会	男子シングルス	ベスト64	田原　雄太
硬式庭球部	春季中国四国学生テニス選手権大会	男子シングルス	ベスト64	草野　邦一
硬式庭球部	夏季中国四国学生テニス選手権大会	男子ダブルス	ベスト64	柳谷　彰人
硬式庭球部	夏季中国四国学生テニス選手権大会	男子シングルス	ベスト64	田原　雄太
硬式庭球部	夏季中国四国学生テニス選手権大会	男子シングルス	ベスト64	草野　邦一
硬式庭球部	全日本大学対抗テニス王座決定試合中四国大会	男子団体(4部)	2位	
バドミントン	春期山口県学生バドミントン大会	女子団体	2位	
バドミントン	春期山口県学生バドミントン大会	女子シングルス	1位	高橋　慶子
バドミントン	春期山口県学生バドミントン大会	女子ダブルス	1位	高橋・月谷
バドミントン	中四国学生バドミントン大会トーナメント	女子シングルス	3位	高橋　慶子
バドミントン	中国学生バドミントン大会	男子シングルス	4位	末廣　光
フットサル	下関フットサルリーグ(2部)		1位	

小学校で国際交流

金　正　炫（東義大学）

日本に来てはや半年が経った。慣れない日本生活や初めての一人暮らしからくる不安は留学経験のある人なら誰でも一度は感じたことがあると思う。しかし、私はこの6ヶ月という貴重な時間の中で、日本舞踊体験や馬関祭への参加を通して日本文化を肌で体験してきた。

一番記憶に残った経験は学校訪問と通訳のボランティアだった。なぜなら、日本と韓国の子供たちに直接接することで、お互いの考え方や行動様式などの違いを発見できたからだ。学校訪問では、文洋中学校の授業に参加し、そこで日本の学生に韓国の文化について話したり、実際に生徒とお喋りしたりして、日本の生徒の考えをよく理解することができた。通訳ボランティアでは、日韓の小学生の交流のために、言葉の通訳をするだけでなく、お互いの文化について教えるという役割も果たした。

私はこれらの経験を通して韓国の生徒と日本の生徒の違いを五感で感じ取ることができた。韓国で聞いていただけの文化を日本で実際に“見て”“接して”“感じて”体得することができた。私は留学生なので、自分の言動一つ一つが日本人の学生に及ぼす影響力が大きいと思う。今後も、日本人学生と接する機会をどんどん持ち、お互いの国の違いや共通点を見出しながら、日韓親善の輪を広げていければと思う。

サークル紹介　バドミントン部

私たちは男子18名、女子8名の計26名で、毎週火・水・金・土の4日、体育館で練習しています。年間を通じて行われる大会に向けて部員全員一丸となって日々奮闘しています。昨年は、年2回の県学生、関北インカレ、中四国リーグ、中四国トーナメント、海峡戦、中国大会そして中四国九州大会などに積極的に参加しました。今年は3年生の高橋慶子選手が中四国トーナメントで3位に入賞し、秋に行われるインカレに出場します。

春と夏に強化練習を行い、部員同士の絆を強くしました。OB会も9月に行い、たくさんの諸先輩方と交流を深めました。それぞれの意識も高く、個人がしっかりとした目標を持っているので、普段の練習をめりはりをつけてこなすことができ、同学年はもちろん先輩後輩の仲も良く、笑いのたえないメンバーで部内は活気にあふれています。

インターンシップに参加して

波　賀　芳　美（国際商学科3年）

私は以前から旅行業に興味を抱いていた。しかし、就職活動を真剣に考えるようになって、実際の業務内容を知らないことに気づき、また旅行業は離職率が高いことを聞き、この機会に現状を知りたくなり、サンデン旅行のインターンシップに参加した。

サンデン旅行では主にカウンター業務を研修した。その内容はパンフレット作業や航空券の発券など様々だった。華やかというイメージは一部で、営業や事務的な作業が大半を占めていた。また、お客の様々な要望に対応するため、日頃からの知識の向上が必要不可欠な業種であった。

今回のインターンシップで、私は時間の大切さに気付かされた。社員の方が休憩時間を惜しんで仕事をされている姿を見て、少しの時間も無駄にはできないと感じた。私も、これからは時間の大切さを意識して、学校生活を有意義に過ごしていきたい。また、社会に出ると、自分から動いていかなければ、何も学べない事を知った。どのような仕事でも積極性が必要なのである。このように多くの事を学べたのは、普段とは違う環境で、日頃お話できない方々とたくさん接したからである。更に、インターンシップは就職活動の中でも業界研究や自己分析の面でも大変役に立った。より多くの人に参加して欲しいと思う。

呂　青（国際商学科3年）

私が今回のインターシップに参加した目的は、実際に日本企業の職場で働くことを体験したかったからである。就職活動を控え、留学生の私にとって、これは切実な願いであった。これまで様々なアルバイトを経験したが、これは単に働いて賃金を受け取るだけのものに過ぎなかった。そのため、仕事に対する責任を感ずることはあまりなかったし、職場でのマナーや言葉遣いなどにもさほど注意を払わなかった。仕事に対する責任感、職場でのマナーや言葉遣いといったものは、社会人として備えていなければならないものなので、これらを学ぶには実際に就業を体験するのが一番良い方法だと思い、今回のインターシップに参加した。

今回のインターシップの受入先となった事業体は下関市の港湾局であった。このインターンシップで、港湾施設の見学、港湾関連事業の補助そして企画会への参加などを体験した。五日間の研修を通じて港湾の機能や特徴を学び、そして仕事の難しさや仕事に対する責任などを感じた。職場でのマナーや言葉遣いはまだ完璧とは言えないが、以前より大分改善できたと思う。インターシップは初めての経験なので、少々緊張したが、職員の方々が優しく対応してくださったので、無事に終了できた。今回の就業体験で、これからの就職活動に大分自信がついた。

今後もインターシップに参加できる機会があるならば、積極的に取り組んでみたい。今度は就職活動の一環として、さらに明確な目的をもってインターシップを体験したいと思う。

外国研修～アメリカ・IEC@DVC～

国際商学科3年　王　若　洋

8月23日～9月21日までの一ヶ月間、アメリカ・サンフランシスコ郊外のPleasant Hillという街にあるDiablo Valley College (DVC) 付属の語学学校International Education Center (IEC) に短期留学してきました。学校の授業にはちゃんとついていけるだろうか、友達をたくさん作れるだろうか、ホストファミリーはどんな人だろうか、うまくコミュニケーションを取れるだろうかなどと期待と不安でいっぱいでした。だけど、アメリカ人は本当に気さくで、優しい人ばかりでしたので、生活面においては何のトラブルもなく楽しく過ごせたと思います。学校のほうでは、韓国、香港、台湾、モンゴル、メキシコなどいろんな国からの留学生がいて、お互い国の文化や習慣の違いを紹介し、触れ合うことができました。また、休日にはクラスメイトたちと一緒にサンフランシスコの街に出かけ、名所を回ったりしてより一層仲良くなれたと思います。この一ヶ月という短い期間において本当に多くの人と知り合うことができました。人との出会いは私にとっての宝物です。

今や英語は世界の共通語となっています。もし私が英語をより多く話すことができたらきっともっと多くの人と触れ合うことができ、もっと多くの事を学ぶことができると思います。だから、今回の短期留学で学んだたくさんの事を胸に刻み、忘れることなくこれからも頑張って英語を学び続けいきたいと思います。

韓国研修記

国際商学科3年　青　柳　　慧

私たち3年生1名、2年生5名は、李亮先生の引率の下、夏季休業中の8月10日から8月25日の2週間、韓国・釜山へ外国研修に行きました。

ほとんどの学生が初めての韓国ということで新鮮な気持ちで下関を出発しました。釜山に着いてからは下関市立大学の姉妹校である東義大学で、午前は韓国人の先生方による文法・発音の講義を受け、午後は私たちのチューターをしてくれた東義大学の学生たちと会話の練習等をして、夕方はチューターたちにつれられて釜山観光をしました。この観光では沢山の思い出が出来ました。

韓国に来て2回目の週末に当たる8月18日から19日には、李先生と私たち7名は安東・慶州に1泊2日の旅行に出かけました。安東や慶州はのどかな田園風景が広がっていて、釜山では見ることの出来ない韓国の別の一面を見ることが出来ました。掲載の写真は慶州の佛国寺で撮ったものです。旅行から帰った翌々日には釜山市内の市立博物館に行き、釜山の歴史や日本と朝鮮半島との関係史を学びました。

こうして、楽しかった釜山での生活もいよいよ終わりを告げる時が来ました。私たちに韓国語を教えて下さった先生方や2週間という本当に短い間だったにもかかわらず旧知の友人の様に私たちに接してくれた東義大学の学生チューターたちとの別れ際は目頭が熱くなりました。おのおの色々な思いや思い出を胸に、帰りのフェリーへと乗り込みました。

私たちは今回の韓国・釜山での外国研修で多くのことを学びました。今回の研修で学んだことを今後の日韓の発展のために役に立てられたらいいなと思います。

中国からの学生訪問団　相次いで来学

今年度に入り、中国の学生訪問団による来学が3件あった。まず1件目は7月8日（日）、上海で日本語を学んでいる大学生30名余りが来学し、図書館や電算室など学内見学や日本舞踊の観賞（花柳英佳和先生の指導）・茶道及び着付けの体験等で日本文化にふれた。美しい衣装に身を包んだ学部生・院生・留学生による「黒田武士」「さくら」「荒城の月」の演舞をみたあと、日本の抹茶と和菓子・「お茶」の空間を堪能し、浴衣を着て記念撮影、さらに生協で共に昼食をとり、交流を深めた。

2件目は7月31日（火）、同じく上海から約20名の学生訪問団が訪れた。本学の誇るべき施設の一つである体育館等、学内を案内し、その後「国際交流会ともだち」が中心となり、今年度中国へ留学する学生を交えて、3つのグループに分かれて歓談やゲームなどを行った。同世代同士すぐに打ち解け、大変楽しそうな表情が印象的であった。

3件目は8月30日（木）、下関～太倉間のフェリー就航第1便で来関した太倉市からの約50名の学生訪問団の来学であった（写真）。多くの本学学生の出迎えの後、「よさこいダンスサークル」がよさこいダンスを披露した。お礼にと太倉市の学生も踊ってくれた。その後柔道部の演技を見学し、柔道着をまとい実際に体験するなど、大変盛り上がりをみせた。

大学のシンボルマーク決まる 海峡をイメージして

公立大学法人
下関市立大学
Shimonoseki City University

大学のシンボルマークとスクールカラーが決まり、10月16日（火）、松藤理事長と坂本学長によってプレス発表が行われた。今後は、この4月に公立大学法人として再出発したばかりの本学の象徴として、各種の印刷物やグッズなどに広く使用されることになる。

シンボルマークは、下関市のプランニングデザイナー、徳毛伸自（とくもしんじ）氏が制作したが、大学の理念やモットーの確認など、度重なる打ち合わせを経てできあがったものであり、この意味では徳毛氏と大学との共同作業の成果でもある。

マークは「下関」の‘S’をモチーフに、下関の地形とこの地域の象徴である「関門海峡」をシンボライズしたもので、中心の円と二つの‘S’は地域で培われた個性が勇躍と世界に羽ばたいていく様子を表している。「地域に根ざし世界を目指す」という本学の理念を形象化したものと言うこともできる。スクールカラーには、関門海峡の深みのある海をイメージしてコバルトブルーマリンを選んだ。

「海峡の英知。未来へ　そして世界へ」

シンボルマークの制定と並んで、ユニバーシティスローガンが定められた。このスローガンは「地域に根ざし、世界を目指す教育と研究を通じ、有為な人材の育成を目指す」という本学の理念・モットーをより直感的なビジョンとして広く訴求することを狙いとしている。下関の象徴であり、そのアイデンティティの拠り所でもある「関門海峡」。この希有な土地に集い、その風土に育まれた若者の「英知」が、遙かな未来を目指し、この地より広く世界へと羽ばたいていくように、という願いが込められている。

インタビューボードを前に、理事長と学長がプレス発表

楽勝ムードはダメ！

上野就職相談室長に聞く

――就職相談室長として赴任されて、半年経ちましたが、どんな感想をお持ちですか

ここ3年間、月2回のペースで、キャリアカウンセリングや講義のために市大に来ていましたので、職員として赴任したといっても、とくに違和感はありませんでした。ただ、この半年間、何かと忙しくて、あっという間でした。

――来年度にはこの相談室はキャリアセンターに衣替えしますが、何が変わるのですか

職員が増えますから、就職相談など、学生への個別対応に今以上に力を入れることができるようになります。また、このセンターは、学生へのキャリア教育を企画・実践する母体となります。来年度から実施するキャリア教育がどのような内容になるか、教務とも相談しながら、目下、検討中です。衣替えに伴って設備の充実も期待できます。

――ところで今年の就職状況はいかがですか、かなり好転していると聞いていますが

今年はとにかく出足が早かったですね。4月に入ってすぐに内々定をもらいました、という報告が相次ぎました。以前は4月下旬から5月上旬がピークでしたから、かなり早い印象です。とくに女子学生の内定が早かった。ただし、出足が早かった割には、9月末時点での内定状況は昨年とそれほど変わりません。女子学生の内定率が77パーセント、男子学生が62パーセント、全体として約70パーセントといったところでしょうか。

――女子学生の健闘が目立ちますね

そうですね。国際商学科の女子学生を中心に元気のよい学生さんが目立ちました。でも、男子学生の場合は、内定をもらってもきちんと報告してくれない学生が多くて。男子学生の内定率は実際にはもっと高いと思いますよ。まだ求人がきていますから、決まっていない4年生は、相談室に来てほしいですね。

――今年の内定状況でとくに目立った傾向は何ですか

今年は、金融関係での内定が目立っています。大手の都市銀行が採用数を増やした結果でもあろうかと思いますが、三井住友や三菱東京UFJなどに内定しています。

――3年生の就職活動も間もなく始まりますが、3年生に向けて、心構えなどをお願いします。

4年生の状況を見て、今の3年生に楽勝ムードが漂っているのか、就職ガイダンスや企業セミナーへの出席率がかんばしくないのが気になります。学生に人気のある企業の採用試験が難しいことには変わりありません。計画的に就職活動を進めていく必要があります。今後の日程は次のようになっていますから、積極的に参加してほしいですね。まず、11月14日の就職ガイダンスでは、企業で人事を担当している本学の卒業生にお話をしていただきます。当日は引き続いて「女子学生のための『働くこと何でも相談しよう会』」を開催します。19日、21日、30日には複数の企業から人事担当者を招いて合同業界研究会を行います。また26日には、「就活直前勉強会」として、SPI模擬試験を行ったあとでエントリーシートの書き方を説明します。

――盛りだくさんですね。学生の積極的な参加と就活での健闘を期待しましょう。ありがとうございました。

◇　◇

上野相談室長：平成元年、下関市立大学経済学科卒業後、山口銀行に入行。平成9年、上野社会保険労務士事務所を開設。そのかたわら平成16年度より山口県若者就職支援センターのキャリアカウンセラーとして活躍。今年4月より本学の就職相談室長。

平成19年度春学期卒業式

9月28日（金）、10時より、A講義棟121番教室で、春学期卒業式が行われた。学部は経済学科14名、国際商学科9名の計23名、大学院は国際ビジネスコミュニケーション専攻の1名であった。出席者は14名であったが、教職員や保護者が見守るなか、出席者の全員に学長から卒業証書・学位記が手渡され、続いて学長から祝辞が述べられた。

平成19年度 市民大学実習講座

地域に開かれた大学として、市民向けの公開講座を今年度は下記の五講座を開講しています。会場はいずれも下関市立大学で開講します。

【初級中国語会話】
―ほんとうに初体験の中国語―
日時　10／3～12／26（全11回）
　　水曜日　18：30～20：00
講師　孫海平（下関市立大学特任教員）

【中級英会話】
―英語でシャベリ場4―
日時　9／19～12／5（全12回）
　　水曜日　19：00～20：30
講師　クリステン・サリバン（下関市立大学特任教員）

【初級朝鮮語会話】
―楽しく学ぶ朝鮮語―
日時　9／20～12／6（全12回）
　　木曜日　18：30～20：00
講師　李亮（下関市立大学特任教員）

【コンピュータ講座】
エクセル―入門から統計処理まで―
日時　10／3～11／21（全8回）
　　水曜日　18：30～20：00
講師　大内俊二（下関市立大学教授）

【健康・スポーツ講座】
―市大流ぜい肉削ぎ落とし塾―
日時　10／4～12／13（全5回）
　　木曜日　10：45～12：15
講師　小笠原正志（下関市立大学准教授）

大学院学会主催講演会「国際捕鯨問題の将来」

講師：中　前　　明（水産庁次長）

さる10月16日（火）本学211番教室で、「国際捕鯨問題の将来」と題し大学院学会主催の講演会が開催されました。講師は水産庁次長であり、IWC（国際捕鯨委員会）日本政府代表代理でもある中前明氏がつとめ、会場は本学学生、捕鯨関連団体や一般の方も含め約100名の聴衆で埋まりました。

中前次長は、現在の捕鯨を巡る世界情勢、本年米国アラスカのアンカレッジで開催されたIWC（国際捕鯨委員会）の最新状況をわかりやすく解説するとともに、機能不全に陥っているIWCの現状を分析しながら、我が国として今後どう対応するべきか、脱退を含めて大変苦慮されていることについても話をされました。

本講演会は、11月14日のオープンを目指して現在準備を進めている鯨資料室とあわせて、日頃なじみの薄い、鯨や捕鯨に対する認識を持つ良いきっかけになったのではないかと思います。（岸本充弘）

行事記録（2007年6月～10月）

6月1日(金)　開学記念日
　15日(金)　第1回就職ガイダンス
　21日(木)　入試説明会・学生総会
7月7日(土)　ミニオープンキャンパス
　11日(水)　世界の厨房
　12日(木)　春学期試験時間割発表
　16日(月)　春学期補講(～20日)
　24日(火)　春学期定期試験開始(～8月6日)
8月5日(日)　オープンキャンパス
　6日(月)　クリーンキャンパスデー
　7日(火)　第2回就職ガイダンス
9月15日(土)　大学院入試
　19日(水)　市民大学開講
　26日(水)　大学院(一次)　入試合格発表
　28日(金)　平成19年度春学期卒業式
10月1日(月)　秋学期授業開始
　2日(火)　大学院入学手続開始(～7日)
　4日(木)　第1回就職入門ガイダンス
　15日(月)　国税専門官説明会
　26日(金)　大学祭(～29日)

編　集　後　記

紙面の都合で、全国大会への出場を果たした学生のうち少林寺拳法部の2名だけを取り上げたが、ほかにも、永富有起君（経済2年）が相撲の県代表として秋田国体に、またバドミントンシングルで、高橋慶子さん（経済3年）が全国大会に出場した（5面参照）。新体育館の効果か、運動部の最近の活性化は好ましい限りである（Y）。